

公立大学法人名古屋市立大学

第三期中期目標期間の業務実績に関する見込評価結果

令和4年9月

名古屋市公立大学法人評価委員会

## <目次>

中期目標期間見込評価の方法について	1
評価結果の記述について	3
1 全体評価	5
2 項目別評価	
I 大学の教育研究等の質の向上に関する項目	
第1 教育に関する項目	9
第2 研究に関する項目	15
第3 社会貢献に関する項目	18
第4 国際化に関する項目	20
第5 附属病院に関する項目	23
II 業務運営の改善及び効率化に関する項目	26
III 財務内容の改善に関する項目	27
IV 自己点検・評価、情報の提供等に関する項目	29
V その他の業務運営に関する項目	30
3 各年度における項目別評価結果の状況	31
4 参考資料	32

## 《中期目標期間見込評価の方法について》

公立大学法人名古屋市立大学の第三期中期目標期間（平成30年度～令和5年度）の業務実績に関する見込評価については、平成19年1月30日に策定した「公立大学法人名古屋市立大学の業務実績に関する評価指針」（令和元年6月10日一部改正）及び令和3年8月20日に策定した「公立大学法人名古屋市立大学の中期目標期間見込評価実施要領」に基づき、以下のとおり評価を行った。

- ① 中期目標期間見込評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- ② 「全体評価」は、次に掲げる「項目別評価」の結果を踏まえ、中期目標の達成見込みについて記述式により評価を行った。
- ③ 「項目別評価」は、中期計画の大項目ごとに大学法人の自己評価を踏まえ、未達成見込項目等がある場合は、その重要性、計画の実施状況等を勘案した上で総合的に評価し、S～Dの5段階で評価を行った。

なお、大項目の区分及び項目別評価の基準については、以下のとおりである。

(大項目の区分)

大項目名	
質の向上に関する項目等の	I 第1 教育に関する項目
	第2 研究に関する項目
	第3 社会貢献に関する項目
	第4 国際化に関する項目
	第5 附属病院に関する項目
II 業務運営の改善及び効率化に関する項目	
III 財務内容の改善に関する項目	
IV 自己点検・評価、情報の提供等に関する項目	
V その他の業務運営に関する項目	

(小項目評価の基準)

IV : 中期計画を上回って達成する見込みである
III : 中期計画を十分に達成する見込みである
II : 中期計画を十分には達成しない見込みである
I : 中期計画を達成しない見込みである

(項目別評価の基準)

評価	内 容	基 準
S	中期目標を上回って達成する見込みである	<ul style="list-style-type: none"><li>・特筆すべき成果を挙げている</li><li>・中期計画の小項目及び数値目標をすべて達成見込みである</li></ul>
A	中期目標を達成する見込みである	<ul style="list-style-type: none"><li>・中期計画の小項目及び数値目標をすべて達成見込みである</li></ul>
B	中期目標をおおむね達成する見込みである	<ul style="list-style-type: none"><li>・中期計画の小項目及び数値目標を9割以上達成見込みである</li></ul>
C	中期目標の達成が不十分の見込みである	<ul style="list-style-type: none"><li>・中期計画の小項目及び数値目標の達成見込みが9割未満である</li></ul>
D	中期目標を達成しない見込みである	<ul style="list-style-type: none"><li>・中期計画の小項目及び数値目標をほとんど達成できない見込みである</li></ul>

- (注) 1 達成見込状況の割合は、小項目、数値目標の項目数を足し合わせて計算する。
- 2 原則として基準に則り評価を行うが、未達成見込項目等の重要性、計画の実施状況等を勘案した上で、総合的に評価する。

## 《評価結果の記述について》

評価結果の記述は、基本的に以下の考え方に基づいて行った。

### (1) 全体評価

#### 【評価結果と判断理由】

業務実績全体を通じての見込評価結果と判断理由を記述する。

#### 【全体的な実施状況】

##### ①特筆すべき取り組み

特筆すべき取り組みについて、客観的な達成状況等を記述する。

##### ②中期目標の達成に向けた課題と今後の対応

中期目標の達成に向けた課題がある事項について、客観的な達成状況及び今後の対応を記述する。

#### 【全体評価にあたっての意見】

業務実績全体を通じての見込評価を行うにあたり、評価委員会から出された意見について記述する。「実施状況」と重複して記述する項目もあるが、本欄により、大学法人の業務実績において評価委員会として積極的に評価する点、改善すべき点等を明らかにする。

## (2) 項目別評価

### 【評価結果】

項目別評価の基準に基づき S～D で評価を行う。

### 【業務実績見込報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる理由】

大学法人による業務実績見込報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる場合は、評価委員会が異なる評価をした理由を記述する。

### 【実施状況】

#### ①特筆すべき取り組み

特筆すべき取り組みについて、客観的な達成状況等を記述する。

#### ②数値目標の状況

中期計画に掲げた数値目標の達成状況を示す。

#### ③未実施又は遅延している事項

未実施又は遅れているものについて、客観的な達成状況及び遅れていると判断した理由を記述する。

### 【評価にあたっての意見】

項目別見込評価を行うにあたり、評価委員会から出された意見について記述する。「実施状況」と重複して記述する項目もあるが、本欄により、大学法人の業務実績において評価委員会として積極的に評価する点、改善すべき点等を明らかにする。

## 1 全体評価

公立大学法人名古屋市立大学の第三期中期目標期間における業務実績は、中期目標・中期計画を計画どおり遂行しており、全体として中期目標の達成に向け中期計画が順調に実施されているものと認められる。

### 【評価結果と判断理由】

1 項目別評価については、以下の表のとおりである。

項目名 \ 評価	S	A	B	C	D
教 育		○			
研 究		○			
社 会 貢 献		○			
国 際 化		○			
附 属 病 院		○			
業務運営の改善及び効率化		○			
財務内容の改善		○			
自己点検・評価、情報の提供等		○			
その他の業務運営		○			

2 項目別評価において、全てA評価となっており、多方面において中期目標の達成に向け努力し結果を残しているものと認められ、全体評価としては、中期計画が順調に実施されているものと認められる。

## 【全体的な実施状況】

### ① 特筆すべき取り組み

#### ・新学部の設置等特色ある教育の実施

⇒ 平成30年度の総合生命理学部設置に加え、人文社会学部においては、平成30年度に公認心理師養成課程、令和元年度にスクール・ソーシャルワーカーの養成課程を設置した。令和5年度にはデータサイエンス学部を設置予定であり、現在開設に向けての準備を進めている。

#### ・コロナ禍における「名市大ブックス」の出版

⇒ コロナ禍において、学びの機会が減少し、市民の健康・医療への関心が高まる中、新たな社会貢献活動として「名市大ブックス」を企画し、令和3年度末までに10巻を出版した。

#### ・東部・西部医療センターの大学病院化及び新型コロナウイルス感染症への対応

⇒ 名古屋市総務局及び病院局並びに名古屋市立大学の三者で会合を行い、理念や基本方針、統合後の組織体制などの解決すべき課題について対応し、令和3年4月の大学病院化を実現した。また、令和3年度には、新型コロナウイルス感染症への対応として、名古屋市が開設した大規模集団接種会場における円滑なワクチン接種を支援するため、3病院から医師・歯科医師・看護師・薬剤師を派遣したほか、東部医療センターにおいて、新たに感染症専用病床を整備し、受入患者の更なる増加に努めた。

#### ・適切かつ有効なメディアを活用した戦略的な大学広報の実施

⇒ 東部・西部医療センターの大学病院化や、開学70周年に向けて、ウェブサイトの特設サイト開設をはじめ、広報なごやへの掲載や、新聞広告など、様々な広報媒体を利用し積極的な広報に努めた。また、大学のスマホ・サイトの使いやすさ等を評価する日経BP「全国大学スマホ・サイトユーザビリティ調査2019-2020」及び「2020-2021」において、2年連続1位という評価を得た。

### ② 目標に対して不十分な取り組みと今後の対応

特になし

## 【全体評価にあたっての意見】

数値目標を含めた103にわたる中期計画の項目について、その実施状況を記した「業務実績見込報告書」に基づき中期計画の達成状況を確認した結果、それぞれの項目に対して法人が積極的かつ誠実に改善に取り組んでいる姿勢が評価できる。今後とも法人をあげた真摯な改革と更なる活躍に期待したい。また、以下では、中期計画全体について、次のように意見する。



## 1 教育について

総合生命理学部の設置や、人文社会学部における新たな養成課程の設置、データサイエンス学部の設置に向けた準備など、時代や社会のニーズに応じた教育体制を目指す姿勢は高く評価できる。今後もこの地域で活躍する人材を育成することができるよう、更なる教育体制の充実・強化を期待したい。

## 2 国際化について

NCU アジア拠点校シンポジウムを開催し、海外研究者との交流促進や共同研究を支援していることは評価できる。新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、どのような支援ができるのか引き続き支援のあり方の検討を進められたい。

## 3 附属病院について

名古屋市の地域医療の充実化、高度化、効率化という大きな目標の中で、東部・西部医療センター、更に令和5年度より新たに大学病院化する2病院も含め、大学病院化を着実に進めている。また、並行して新型コロナウイルス感染症への対応として、大規模集団接種会場への医師・看護師などの派遣や、積極的に陽性患者などの受入を進めていることは高く評価できる。新型コロナウイルス感染症の終息の見込みがたたない中、医療従事者の方々には大変な状況が続いているが、今後も引き続き名古屋市の感染症医療の中心的役割を担って頂くことをお願いしたい。

## 4 業務運営について

事務職員の採用区分の見直しや、「事務職員育成プラン」の策定など、新たな取り組みを実施していることは評価できる。今後も、高度化・複雑化する大学運営の核となる教職員の採用・育成を戦略的に実施することを期待したい。

## 5 財務内容の改善について

平成30年度の税制改正に対応し、「公立大学法人名古屋市立大学現物資産活用基金」を新たに設置し、実際に有価証券の受け入れをしたことは高く評価できる。また、コロナ緊急学生支援基金の設置や開学70周年に向けた新たな寄附の獲得に向けた取り組みを開始し、多くの寄附を獲得できたことも評価できる。今後も自主財源額の更なる獲得を目指し、引き続き取り組みを進められたい。

## 6 その他の業務運営について

ダイバーシティ推進本部の立ち上げや、ポジティブ・アクションの実施などの取り組みを行なっていることは評価できる。今後は在宅勤務の適用範囲拡大をしていくなど、職員が一層働きやすい職場環境づくりを行うよう期待したい。

## 7 取り組み全体について

第三期中期目標期間の四年目を終え、中期目標策定時には想定しえなかった新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教育・研究・国際化等、あらゆる場面で業務運営の工夫を重ねてきたほか、附属病院においては、公的病院として陽性患者等の受入対応等に変な努力をされたことは高く評価できる。残りの2年間においても、緑市民病院・厚生院附属病院の大学病院化やデータサイエンス学部の開設など、市立大学にとって大きな変革を迎えることとなるが、市立大学が更なる発展を遂げられることを大いに期待したい。

## 2 項目別評価

### I 大学の教育研究等の質の向上に関する項目

#### 第1 教育に関する項目

【評価結果】

(参考)

評価結果	自己評価	年度評価結果					
		平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
A	A	計画どおり実施	おおむね計画どおり実施	計画どおり実施	計画どおり実施		

【実施状況】

#### ① 特筆すべき取り組み

##### ・「進化型実務家教員養成プログラム」の採択

⇒ 令和元年度に、文部科学省の「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において、本学から申請した、PBL（Project-Based Learning：課題解決型学習）とIPE（Interprofessional Education：多職種連携教育）を重視して実務家教員の養成に取り組む「進化型実務家教員養成プログラム」が採択された。

##### ・新型コロナウイルス感染症に対する学生支援

⇒ 令和2年度において、新型コロナウイルス感染症の影響による保護者等の家計急変やアルバイト収入減等で経済的に困窮する学生のうち、国等の経済支援制度を利用しても、なお経済的に困窮する学生に本学独自の支援金を給付した。（一人あたり50,000円、377人に給付。）

##### ・データサイエンス学部の設置準備

⇒ 学部設置に向けた準備として、文部科学省の事前相談などを活用し、様々な課題（カリキュラム、必要経費、設置場所等）を整理、検討するとともに、データサイエンス学部の教員公募を実施して、届出に必要な教員を確保するなど、学部設置に向けた申請の準備を進めた。

また、広報活動として、学部の設置構想等を紹介するサイトを大学総合ウェブサイト内に立ち上げるとともに、リーフレットの作成・配布（令和3年12月以降、高校や企業に配布）、地下鉄扉ステッカー広告（令和4年3月）などの取り組みを実施した。

② 数値目標の状況

・ 研究科毎の入学定員充足率（入学者を定員で除したもの）の3年平均

目 標		【参考】	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
【大学院修士課程 及び博士前期課程】		平成27 ～29 年度入試	平成29 ～令和元 年度入試	平成30 ～令和2 年度入試	令和元～3 年度入試	令和2～4 年度入試	令和3～5 年度入試	令和4～6 年度入試
各年度 100%	医学研究科 修士課程	76.7%	100.0%	76.7%	90.0%	73.3%		
	薬学研究科 博士前期課程	115.6%	105.6%	103.2%	106.0%	92.7%		
	経済学研究科 博士前期課程	65.0%	64.2%	64.2%	76.7%	89.2%		
	人間文化研究科 博士前期課程	85.3%	114.9%	121.9%	112.4%	101.9%		
	芸術工学研究科 博士前期課程	68.9%	76.7%	73.3%	76.7%	74.4%		
	看護学研究科 博士前期課程	90.3%	75.0%	75.0%	73.6%	76.4%		
	システム自然 科学研究科※ 博士前期課程	80.0%	62.2%	64.5%	53.3%	76.0%		

※令和2年4月に理学研究科へ名称変更。

(注) 令和3年度の実績（令和2～4年度入試の実績）には、令和4年度10月入学者数は、未確定のため含まれていない。

目 標		【参考】	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
【大学院博士課程 及び博士後期課程】		平成27 ～29 年度入試	平成29 ～令和元 年度入試	平成30 ～令和2 年度入試	令和元～3 年度入試	令和2～4 年度入試	令和3～5 年度入試	令和4～6 年度入試
各年度 70%を 下回る 研究科 の解消	医学研究科 博士課程	109.0%	92.3%	92.9%	91.7%	87.2%		
	薬学研究科 博士後期課程	63.9%	61.1%	69.4%	80.5%	55.5%		
	薬学研究科 博士課程	127.8%	96.7%	96.7%	93.5%	73.3%		
	経済学研究科 博士後期課程	40.0%	26.7%	33.3%	60.0%	60.0%		
	人間文化研究科 博士後期課程	60.0%	66.7%	60.0%	60.0%	66.7%		
	芸術工学研究科 博士後期課程	46.7%	73.3%	73.3%	73.7%	46.7%		
	看護学研究科 博士後期課程	53.3%	73.3%	86.7%	73.3%	80.0%		
	システム自然 科学研究科※ 博士後期課程	40.0%	92.3%	92.9%	91.7%	87.2%		

※令和2年4月に理学研究科へ名称変更。

(注) 令和3年度の実績（令和2～4年度入試の実績）には、令和4年度10月入学者数は、未確定のため含まれていない。

・ 卒業者（就職希望者）の就職率

目 標	【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
各年度 100%	99.3%	99.1%	98.7%	98.5%	97.8%		

・ 全授業科目での主体的な学修の導入率

目 標	【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 60%	32.5%	47.1%	58.4%	59.0%	62.5%		

・専任教員のFD※参加率

目 標	【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
各年度 75%	44.4%	55.9%	76.3%	80.6%	77.2%		

※ファカルティ・ディベロップメント。教育方法等を改善するための組織的な研究・研修等の取り組み

・医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師国家試験合格率

目 標	【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
各年度 100%	医 師	97.3%	92.9%	97.8%	99.0%	99.0%	
	薬剤師	91.1%	92.5%	88.7%	89.1%	76.7%	
	看護師	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	保健師	100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	助産師	85.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

・社会福祉士国家試験の在学中合格者数

目 標	【参考】 平成24 ~28年度 の累計	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 36人	30人	7人	6人	2人	9人		
(平成30~ 令和5年度の 累計)		累計 24人					

・高等学校及び中学校教諭免許の取得件数

目 標	【参考】 平成24 ~28年度 の累計	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 165件	144件	19件	16件	42件	31件		
(平成30~ 令和5年度の 累計)		累計 108件					

・幼稚園教諭免許及び保育士資格の取得件数

目 標	【参考】 平成24 ~28年度 の累計	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 180件	109件	31件	26件	16件	22件		
(平成30~ 令和5年度の 累計)		累計 95件					

・臨床心理士及び公認心理師資格取得件数※

目 標	【参考】	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 100件			20件	27件	15件		
(令和元~5 年度の累計)			累計 62件				

※大学院修了後1年以内の修了者による取得件数

・公認会計士合格者数※

目 標	【参考】 平成24 ～29年度 の累計	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 18人	19人	5人	5人	6人	2人		
(平成30～ 令和5年度の 累計)		累計 18人					

※学部卒業後1年以内の既卒者による合格を含む

・学士課程低年次の就職ガイダンスの実施回数

目 標	【参考】 平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和3～5年度の 各年度 5回	0回	6回	6回	1回	5回		

③ 未実施又は遅延している事項

特になし

【評価にあたっての意見】

・新型コロナウイルス感染症に対する学生支援

⇒ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、独自の緊急給付金の支給や留学生へのオンラインミーティングなど、適宜必要な支援を行っていることは評価できる。



## I 第2 研究に関する項目

### 【評価結果】

(参考)

評価結果	自己評価	年度評価結果					
		平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
A	A	計画どおり実施	計画どおり実施	計画どおり実施	計画どおり実施		

### 【実施状況】

#### ① 特筆すべき取り組み

##### ・都市政策研究センターの開設

⇒ 総合大学である強みを活かし、それぞれの専門分野を融合させながら、都市政策に係る多種多様な課題の解決に向けた調査・研究・分析を通して社会貢献を行うことを目的に、平成30年度に都市政策研究センターを開設した。名古屋市だけでなく、近隣自治体からの受託研究の実施のほか、民間企業や他大学と連携した調査・研究、民間企業のシンクタンクと連携した自治体職員向け研修やワークショップの開催などを行っている。

##### ・脳神経科学研究所の開設

⇒ 社会ニーズの高い認知症や発達障害などに関する先進的な基礎医学研究を充実させることによって、その発症メカニズムの解明や新たな診断法・予防法の開発などを目指し、令和元年度に脳神経科学研究所を開設した。

#### ② 数値目標の状況

##### ・科学研究費助成事業採択件数

目 標	【参考】 平成26 ～28年度の 3年平均	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
	令和5年度 410件 (令和3～5年 度の3年平均)	373件	平成28 ～30 年度平均 419件	平成29 ～令和元 年度平均 460件	平成30 ～令和2 年度平均 497件	令和元～3 年度平均 532件	令和2～4 年度平均

・国等の大型競争的資金※への申請件数

目 標	【参考】 平成26 ～28年度の 3年平均	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 53件 (令和3～5年 度の3年平均)	35件	平成28 ～30 年度平均	平成29 ～令和元 年度平均	平成30 ～令和2 年度平均	令和元～3 年度平均	令和2～4 年度平均	令和3～5 年度平均
		54件	59件	63件	63件		

※国や国の独立行政法人等の競争的資金制度のうち、申請額が年間500万円以上のもの(科学研究費助成事業は除く)

・主要学術誌等掲載論文数※

目 標	【参考】 平成26 ～28年度の 3年平均	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 640件 (令和3～5年 度の3年平均)	582件	平成28 ～30 年度平均	平成29 ～令和元 年度平均	平成30 ～令和2 年度平均	令和元～3 年度平均	令和2～4 年度平均	令和3～5 年度平均
		649件	706件	760件	826件		

※Scopus(抄録・引用文献データベース)による数値

・民間企業等※との共同研究・受託研究の受入額

目 標	【参考】 平成26 ～28年度の 3年平均	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 197,000千円 (令和3～5年 度の3年平均)	164,117 千円	平成28 ～30 年度平均	平成29 ～令和元 年度平均	平成30 ～令和2 年度平均	令和元～3 年度平均	令和2～4 年度平均	令和3～5 年度平均
		199,389 千円	224,196 千円	226,015 千円	230,017 千円		

※国内民間企業及び公益法人等

③ 未実施又は遅延している事項

特になし

**【評価にあたっての意見】**

・国等の大型競争的資金獲得に向けた支援

⇒ 国等の大型競争的資金への申請について、申請書作成等の支援を行い、実際に申請件数が増加していることは評価できる。総合大学としての特性を生かし、異なる研究科や国内外の大学・施設との連携を進め、一層研究活動を推進することを期待したい。

## I 第3 社会貢献に関する項目

### 【評価結果】

(参考)

評価 結果	自己 評価	年度評価結果					
		平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
A	A	A	B	A	A		

### 【実施状況】

#### ① 特筆すべき取り組み

##### ・大学の地域貢献度ランキング 全国1位

⇒ 名古屋市の様々な施策への積極的な連携・協力及び大学の教育研究成果の地域への還元を進めた結果、全国761の国公立大学を対象として、大学が地域社会にどのように貢献しているかを探る「大学の地域貢献度に関する全国調査2021」（日本経済新聞社）にて、令和3年度に総合ランキング全国1位の評価を得た。

##### ・THE 大学インパクトランキング 上位獲得

⇒ 国連が掲げる「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals (SDGs)」に対して、大学がいかに関わり、社会に影響を与えているかを可視化した世界初のランキング「THE 大学インパクトランキング2020」（イギリス高等教育専門誌Times Higher Education (THE) 発表）で、総合ランキング世界201-300位、国内同率9位となった。また、SDG別のランキングでは、特にSDG3「すべての人に健康と福祉を」において、世界16位、2年連続国内1位となった。

#### ② 数値目標の状況

##### ・地域連携事例集の掲載件数

目 標	【参考】 平成29年 12月1日 時点	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 50件	32件	35件	39件	43件	46件		

・市民公開講座の満足度\*

目 標	【参考】 平成24 ～29年度の 6年平均	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 90% (平成30～ 令和5年度 の6年平均)	87.6%	92.7%	平成30 ～令和元 年度平均 93.3%	平成30 ～令和2 年度平均 92.3%	平成30 ～令和3 年度平均 92.4%	平成30 ～令和4 年度平均	平成30 ～令和5 年度平均

※受講者へのアンケートにおいて、受講の感想が「よかった」「まあよかった」と答えた人数の回答数に占める割合

③ 未実施又は遅延している事項

特になし

【評価にあたっての意見】

・「名市大ブックス」の出版

⇒ 新型コロナウイルス感染症の影響により学びの機会が減少する中、手軽に知識・教養を得ることができる書籍シリーズ「名市大ブックス」の企画・出版により、コロナ禍での生涯学習に貢献したことは高く評価できる。

・高大連携事業の取り組み

⇒ 名古屋市教育委員会との高大連携事業（大学丸ごと研究室体験、NCUグレード・スキップ・チャレンジ）について、7学部による全学的な取り組みに発展させていることは評価できる。今後も引き続き、大学の魅力を伝えられる取り組みを充実させていくことを期待したい。

## I 第4 国際化に関する項目

### 【評価結果】

(参考)

評価 結果	自己 評価	年度評価結果				
	A	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
A		A	A	A		

### 【実施状況】

#### ① 特筆すべき取り組み

##### ・コロナ禍における留学生支援

⇒ 新型コロナウイルス感染症のため、入国規制により前期授業が始まっても来日できなかった受入留学生向けにオンラインを組み合わせた授業を実施するとともに、来日前の留学生からの履修相談に対応した。また、来日できない留学生も含めて留学生同士の交流を深めるための留学生ミーティング等のイベントを開催した。

#### ② 数値目標の状況

##### ・大学間交流協定校数

目 標	【参考】 平成29年 12月1日 時点	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 50校	37校	44校	46校	48校	53校		

##### ・海外拠点校数

目 標	【参考】 平成29年 12月1日 時点	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 7校	3校	4校	4校	4校	4校		

・海外学習体験者数※

目 標	【参考】 平成26 ~28年度の 3年平均	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 150人 (令和3~5年 度の3年平均)	117人	192人	平成30 ~令和元 年度平均  198人	平成30 ~令和2 年度平均  229人	令和元~3 年度平均  241人	令和2~4 年度平均	令和3~5 年度平均

※留学、インターンシップ及び国際学会発表等を体験した学生数

・受入留学生数

目 標	【参考】 平成26 ~28年度の 3年平均	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 180人 (令和3~5年 度の3年平均)	140人	183人	平成30 ~令和元 年度平均  188人	平成30 ~令和2 年度平均  183人	令和元~3 年度平均  179人	令和2~4 年度平均	令和3~5 年度平均

・国際共著論文数※

目 標	【参考】 平成26 ~28年度の 3年平均	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
令和5年度 130件 (令和3~5年 度の3年平均)	111件	平成28 ~30 年度平均  118件	平成29 ~令和元 年度平均  130件	平成30 ~令和2 年度平均  147件	令和元~3 年度平均  160件	令和2~4 年度平均	令和3~5 年度平均

※Scopus(抄録・引用文献データベース)による数値

③ 未実施又は遅延している事項

特になし

**【評価にあたっての意見】**

- ・ 海外研究者との研究交流や共同研究の推進

⇒ （「1 全体評価【全体評価にあたっての意見】(P.7)」参照）



## I 第5 附属病院に関する項目

### 【評価結果】

(参考)

評価 結果	自己 評価	年度評価結果					
	A	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
A		A	B	A	S		

### 【実施状況】

#### ① 特筆すべき取り組み

- ・ 東部・西部医療センターの大学病院化及び新型コロナウイルス感染症への対応

⇒ 「1 全体評価【全体的な実施状況】①特筆すべき取り組み (P.6)」参照

- ・ 救急・災害医療センター（仮称）の整備

⇒ 市立大学病院において、令和元年度から基本計画の策定、基本設計、実施設計を段階的に  
行い、令和3年度には工事発注に必要な実施設計を行うとともに、立体駐車場の整備工事を  
行った。

#### ② 数値目標の状況

- ・ 地域医療機関からの紹介患者数

目 標		【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
市立大学 病院	令和5年度 23,500人	20,409人	23,108人	23,824人	20,479人	21,369人		
東部医療 センター	令和5年度 17,500人	15,648人				15,072人		
西部医療 センター	令和5年度 17,600人	15,952人				16,034人		

・ 新入院患者数

目 標		【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
市立大学 病院	令和5年度 20,400人	18,262人	19,682人	20,098人	17,830人	18,804人		
東部医療 センター	令和5年度 11,500人	10,570人				11,490人		
西部医療 センター	令和5年度 14,500人	12,903人				12,960人		

・ 医薬材料費比率(医薬材料費(税抜)/診療収入)

目 標		【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
市立大学 病院	令和5年度 37.0%以内 (30~令和 5年度の 6年平均)	37.7%	37.5%	平成30 ~令和元 年度平均	平成30 ~令和2 年度平均	平成30 ~令和3 年度平均	平成30 ~令和4 年度平均	平成30 ~令和5 年度平均
				37.6%	37.7%	38.0%		
東部医療 センター	令和5年度 28.6%以内 (令和3~ 5年度の 3年平均)	27.3%				27.6%	令和3~4 年度平均	令和3~5 年度平均
西部医療 センター	令和5年度 29.7%以内 (令和3~ 5年度の 3年平均)	23.1%				26.9%	令和3~4 年度平均	令和3~5 年度平均

・臨床研究(介入研究<sup>※</sup>)の新規実施件数

目 標		【参考】	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
市立大学 病院	令和5年度 74件 (令和3～ 5年度の 3年平均)	62件 (26～28 年度の 3年平均)	平成28 ～30 年度平均	平成29 ～令和元 年度平均	平成30 ～令和2 年度平均	令和元～3 年度平均	令和2～4 年度平均	令和3～5 年度平均
	43件		34件	37件	35件			
東部医療 センター	令和5年度 5件 (令和3～ 5年度の 3年平均)	1件 (26～28 年度の 3年平均)				1件	令和3～4 年度平均	令和3～5 年度平均
西部医療 センター	令和5年度 5件 (令和3～ 5年度の 3年平均)	1件 (26～28 年度の 3年平均)				1件	令和3～4 年度平均	令和3～5 年度平均

※患者に研究を目的とした検査や治療、ケアなどを受けていただき、その効果や影響を評価する研究

③ 未実施又は遅延している事項

特になし

【評価にあたっての意見】

・附属病院における共同購入の推進

⇒ 3病院の医薬品及び診療材料の共同購入の推進を図るため、各ワーキンググループで議論を行い、一定数対象品目を拡大したことは評価できる。今後も引き続き対象品目の拡大に向け議論を進めていく中で、令和5年度より新たに大学病院化する2病院も含めてどのように拡大していくのかについても、検討を進められたい。

## II 業務運営の改善及び効率化に関する項目

### 【評価結果】

(参考)

評価 結果	自己 評価	年度評価結果				
	A	平成 30	令和元	令和2	令和3	令和4
A		A	A	A		

### 【実施状況】

#### ① 特筆すべき取り組み

- ・「事務職員育成プラン」の策定

⇒ 大学及び病院を取り巻く環境が変化するなか、大学職員能力及び資質のより一層の向上が求められていることから、平成31年2月に「事務職員育成プラン」を策定した。

#### ② 未実施又は遅延している事項

特になし

### 【評価にあたっての意見】

- ・組織体制の見直し

⇒ 附属病院が増えるなど法人としての情勢が変わる中、柔軟な組織再編を行い、適切で効率的な業務運営を図られたことは評価できる。

- ・高度化・複雑化する大学運営業務を担う教職員の採用及び能力向上

⇒ (「1 全体評価【全体評価にあたっての意見】(P.7)」参照)

### Ⅲ 財務内容の改善に関する項目

#### 【評価結果】

(参考)

評価 結果	自己 評価	年度評価結果					
	A	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
A		A	A	A	A		

#### 【実施状況】

##### ① 特筆すべき取り組み

- ・「現物資産活用基金」の設置

⇒ 平成30年度の税制改正に伴い、新たに「現物資産活用基金」を設置し、高額の投資信託の寄附を受け入れた。

##### ② 数値目標の状況

- ・流動比率（流動資産/流動負債）

目 標	【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
各年度 100%以上	142.8%	138.2%	144.7%	158.0%	166.1%		

- ・当期総損益

目 標	【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
各年度 プラス（黒字）	148 百万円	△87 百万円	△62 百万円	1,511 百万円	9,643 百万円		

- ・大学自主財源額\*

目 標	【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
各年度 対前年度比プラス	4,886 百万円	4,960 百万円	5,001 百万円	5,168 百万円	5,508 百万円		

※運営費交付金以外の財源（自己収入、寄附金及び受託研究収入等）

・一般管理費比率（一般管理費/業務費）

目 標	【参考】 平成28	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
各年度 1.7%以下	1.8%	1.7%	1.9%	2.0%	2.0%		

③ 未実施又は遅延している事項

特になし

【評価にあたっての意見】

・集約化等による業務の見直し

⇒ 東部・西部医療センターの大学病院化に伴い、3病院による業務委託契約等の一括契約に取り組んでいることは評価できる。今後も、業務委託の集約化や新たな契約形態の検討をするなど、業務の見直しを進め、一般管理費の縮減に努められたい。

#### IV 自己点検・評価、情報の提供等に関する項目

##### 【評価結果】

評価 結果
<b>A</b>

(参考)

自己 評価	年度評価結果					
<b>S</b>	平成 30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
	A	S	A	S	/	/

##### 【業務実績見込報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる理由】

中期計画で掲げた取り組みについては達成見込みであり、様々な機会を捉えて市立大学の強みや特色を広く発信してきたことは評価できるものの、今後これまでの取り組みを更に発展させるとともに、名古屋市民をはじめ国内外に対し大学の魅力発信に益々取り組んでいくことを期待し、A評価が妥当であると判断した。

##### 【実施状況】

###### ① 特筆すべき取り組み

・適切かつ有効なメディアを活用した戦略的な大学広報の実施

⇒ 「1 全体評価【全体的な実施状況】①特筆すべき取り組み (P.6)」参照

###### ② 未実施又は遅延している事項

特になし

##### 【評価にあたっての意見】

・ 広報の充実

⇒ 開学70周年や東部・西部医療センターの大学病院化など、目玉になるような事業を契機として、様々な広報媒体を活用し、積極的に広報を展開したことは高く評価できる。

## V その他の業務運営に関する項目

### 【評価結果】

(参考)

評価 結果	自己 評価	年度評価結果				
	A	平成 30	令和元	令和 2	令和 3	令和 4
A		B	A	A	A	

### 【実施状況】

#### ① 特筆すべき取り組み

##### ・SDGsセンターの設立

⇒ 名古屋市立大学の有する教育、研究成果等の資源を活用し、名古屋市と連携しながらSDGsの達成に向けた活動を推進することを目的とし、全学組織として名古屋市立大学SDGsセンターを開設した。本センターを中心に、SDGsに関する学内への啓発活動や、イベント出展等を活用し、積極的な情報発信を行った。

#### ② 数値目標の状況

##### ・女性上位職教員（教授・准教授）数

目 標	【参考】 平成29年 10月1日 時点	平成30	令和元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5
令和 5 年度 60 人 <21.7%>	55 人 <19.9%>	55人	58人	59人	70人		

※表中の< >は、上位職教員のうち女性が占める割合で参考値。

#### ③ 未実施又は遅延している事項

特になし

### 【評価にあたっての意見】

##### ・男女共同参画の推進

⇒ 「1 全体評価【全体評価にあたっての意見】(P.7)」参照



### 3 各年度における項目別評価結果の状況

年 度	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
大項目名						
教育	計画どおり 実施	おおむね 計画どおり 実施	計画どおり 実施			
研究	計画どおり実施					
社会貢献	A	B	A	A		
国際化	A	A	A	A		
附属病院	A	B	A	S		
業務運営の改善及び効率化	A	A	A	A		
財務内容の改善	A	A	A	A		
自己点検・評価、情報の 提供等	A	S	A	S		
その他の業務運営	B	A	A	A		

※ 教育・研究については、地方独立行政法人法第69条の規定により、その特性に留意し、小項目評価及び大項目評価は行わず、事業の進捗状況を客観的外形的に確認する。

## 4 参考資料

### 【委員名簿】（50音順）

氏 名	役 職 等
内田 淳正	三重大学 学長顧問
小笠原 剛	(株)三菱UFJ銀行 顧問
木村 彰吾 ☆	国立大学法人東海国立大学機構 機構長補佐 名古屋大学 副総長
近藤 桃子	公認会計士
南部 初世	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授

☆ 委員長

### 【第三期中期目標期間の業務実績見込に関する評価結果に係る評価委員会開催結果 （令和4年度）】

- ・第1回 6月14日 開催
- ・第2回 7月22日 開催
- ・第3回 8月23日 開催